

カモの越冬地

冬のバードサンクチュアリは、越冬のために渡ってくるカモの休憩地です。

水面に浮かんだり、くちばしを羽の中に突っ込みながら休んでいる姿は、可愛らしく見えて心が和みます。夜行性のカモは、昼間はこのバードサンクチュアリの池で過ごし、辺りが暗くなると川や田んぼなどへ、エサを食べるために飛び立っていきます。そして明るくなったら再びこの池へと戻ってきます。

このような生活パターンをするカモにとって、バードサンクチュアリは昼間、休憩する安全な場所です。

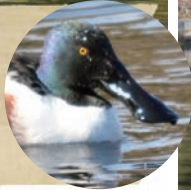
▼エサを食べるコガモのペア
カルガモ、マガモ、コガモなどは逆立ちになって水草などを採食します。



池にやってくる、代表的なカモ

ハンジビロガモ 左:メス 右:オス

ほとんどは冬鳥として渡来し、主に池や湖で越冬するカモ。このシャベルのように広がった長いくちばしで、水面付近のプランクトンなどをこしとって食べる。



冬のバードサンクチュアリ

冬の池を彩るカモ

ほとんどのカモ類のオスが、美しい繁殖の羽へと抜けかわるのは、秋も深まる頃からです。首を伸ばしたり縮めたりなどして、メスへの求愛行動をします。繁殖期の冬の間には、仲良くペア(つがい)になって行動する姿も観察することができます。

地味な羽色をしているメスは、種類を見分けるのがとても難しいのですが、オスの羽色の特徴を覚えておくと、この時期は一緒にいることが多いので種類がだいたいわかります。

このバードサンクチュアリで寒い冬を越したカモたちは、春の早い時期には再び繁殖のために北の方へと飛び立っていきます。繁殖地では産卵の頃から、オスはメスから離れていき、抱卵(ほうらん)や子育てはメスだけで行います。

カモの仲間



コガモ

カモの仲間では小さい部類。体はハトより少し大きい。秋から春頃まで見られる冬鳥。



カルガモ

全国的に繁殖していて、三重県では年中見ることができる留鳥。ほかのカモとは違って、オスとメスは同じ羽色をしている。



ヒドリガモ

バードサンクチュアリでは、ヒドリガモ(冬鳥)も確認されている。写真は両方とも繁殖羽のオス。

バードサンクチュアリに集まる野鳥たち



「オオタカ」カラスくらいの大きさで、冬場は平野部でもよく見られる。バードサンクチュアリにいるカモやサギ、小鳥類を狙って、オオタカのほかに、チョウゲンボウやノスリなどの猛禽類(もうぎんるい)がやってくる。

①「セグロセキレイ」留鳥。地上を歩いてエサをさがす。②「カワセミ」留鳥。ダイビングして水中の狙った魚を捕まえる。③「ヤマガタリ」留鳥。カラフルな色が目を引く小鳥。④「ツクミ」冬鳥。はねて可愛らしく歩く。